

最近、日本の若者が海外に出たがらないという話をよく聞く。米国の一流大学へ進学しようとする学生の数は、中国は言うに及ばず韓国にも遠く及ばない。アジアへ留学しようとする学生の数も非常に少ない。海外勤務を避けようとする商社の社員さえいるという、冗談としか思えない話も聞かされている。日本の居心地がよく、海外に出て行く気概が持てないのか。「国が衰退していくのはどうしたことから始まる」とある経営者が嘆いていた。



伊藤元重の

ニュースな見方

「明治日本というのは、とても日本人をけいべつし考えてみれば漫画として理解した方が早い。(中略)ほんの二十余年前まで腰に大小をはさみ、東海道を2本のすねで歩き、世界じゅうのどの国にもないまげと独特の民族衣装を身につけていたこの国民が、いまはまがりなりにも、西洋式の国会をもち、法律をもち、ドイツ式の陸軍とイギリス式の海軍を持っている。(中略)世界の中華であると

い。の欧化をけいべつした。もすのだろうか。日本経済のル・北京のいくつかの主力の Erasms プログラムの復活の鍵は、外に向かつて大学が連係して、複数の大日本をどこまで開いていけるのかにかかっている。そのために何よりもやらなければならないことは、欧州には Erasms スプロラムという制度があり、1つの国で1年以上、最低2つの国にまたがってコースをとることで、アジアで通用する人材が増えれば、日本の経済や社会を変えていく上でも大きな貢献をしてくれるはずだ。資源がない日本は将来のための人材に投資するしかない。その人材投資の鍵はアジア人材ではないだろうか。

先日、ソウル大学の教授が訪ねてきて、東京・ソウ

人材への投資 アジアが鍵

海外に出ない日本の若者

先日、ソウル大学の教授が訪ねてきて、東京・ソウ

*この記事・写真等は日経新聞社の許諾を得て転載しています。

（東大大学院 経済学研究科教授）